

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujijoiku.ne.jp>

全国病児保育  
協議会  
広報委員会

# 病児保育協議会ニュース



=今号の目次= 第17回研究大会・総会特集	
1頁 協議会メール 第17回研究大会を終えて	「病児保育の管理と運営」
2頁 1頁より続く	8頁 なんでも相談報告
3頁 基調講演まとめ	「施設の運営・管理」
4頁 教育講演1まとめ	「保育看護の実践」
教育講演2まとめ	9頁 ポスターセッション報告
5頁 教育講演3まとめ	「保育看護と地域連携」
会頭講演まとめ	「遊びとおもちゃの工夫」
6頁 特別講演まとめ	「病児保育のニュースと問題点」
7頁 分科会報告	大会参加者の声
「病児保育のニュースと問題点」	10頁～11頁
「病児保育の実践と工夫」	第17回全国病児保育協議会総会議事録
	12頁 第17回研究大会・総会風景

## 協議会メール 第17回全国病児保育研究大会(福岡)を終えて 第17回全国病児保育研究大会 会頭 高崎 好生



1. はじめに  
平成19年7月15日(日)・16日(月・祭)に福岡国際会議場において第17回全国病児保育

研究大会を開催いたしました。

前日14日早朝より台風第4号が九州に接近により南九州はすでに暴風圏内に入り、福岡でも徐々に風が強くなり、大会の開催も危ぶまれておりましたが、福岡ではまだそれほど暴風には至っていませんでした。14時過ぎに予定どおりに全国病児保育協議会の運営委員会が開かれました。その後、調査研究委員会、広報委員会、研修委員会が開かれ、それぞれの会での議事がおわり、17時30分より協議委員会が開かれました。しかし、交通事情の混乱によりどうしても参加できない委員が2, 3名ありました。

幸い、大会当日には福岡直撃を免れ天候は回復しましたが、台風は東北に進行し交通事情はかかなり悪くなっていましたので、参加予定の方は大変苦労されたようです。中には随分おくれて福岡に到着された方もあったようです。

そのような事情により、開会にあ

たっては大変気がもまれましたが、予定通り定刻に開会式が始まりました。

### 2. 開会式

開会に際し、全国病児保育協議会会長木野稔先生、第17回病児保育研究大会会頭高崎好生の挨拶に引き続き、福岡県副知事海老井悦子様、福岡市長吉田浩様に来賓の温かい挨拶をしていただきました。特に吉田市長は前夜からの山笠の追い山に徹夜で出られた直後で非常にお疲れのところを、押して祝辞を述べていただきました。恐縮するとともに大変感激いたしました。

### 3. プログラム

今大会のテーマを「拓こう病児保育の未来を 保育の資質向上をめざして」と決め、プログラムの作成に当たりました。各方面から講師の候補を推薦していただき、最適の先生方にご依頼したところ、全員の先生方に快く講師を引き受けていただきました。その結果、当初考えていた以上のすばらしいプログラムを企画することが出来ました。

プログラムの構成は開催地の実行委員が企画する基調講演、特別講演、会頭講演、厚生労働省による行政説明、教育講演3題のほか何でも相談Ⅰ、Ⅱ、会員の発表の場として5

分科会と協議会の研修委員会が企画する基礎研修看護Ⅰ、保育Ⅰ、総論、看護保育、ステップアップ研修の内容で実施されました。

### 4. 講演

講演ではまず、帆足英一先生による基調講演「多様化する病児保育の資質向上に向けて」は病児保育施設の多様化、特に今話題になっている自園型病児保育施設についての解説、保育資質の向上のためにはセーフティ・マネジメントのシステム確立することの必要性について話していただきました。

横山正幸先生には特別講演として「子どもの育ちとこれからの子育て支援」と題し、親のこどもへの関り方の問題、子どもの健やかな発達を阻害しているのは、放任と過干渉が共存した「放任・過干渉共存型過保護」に起因していること、その結果として育児力の低下が深刻化している。親の育児力の低下を高めていくことが緊急の課題であり、それを支援していくことの重要性とそれにかかわる専門家の養成の必要性について力説されました。横山先生のお人柄がうかがえる本当に感銘の深い内容の話を聞かせていただきました。

私高崎好生は会頭講演として「福岡における病児保育の現状と課題」

と題し、福岡市の就学前児童の減少、病児保育に対する小児科医会と医師会の関り、実施までの経過、利用状況の中から予約とキャンセルの問題、保護者の意識、医療機関付設型施設の利点、現在の問題と課題、今後の展開について述べました。

厚生労働省の行政説明は当初予定していた千村課長から急遽変更になり小林秀幸課長補佐にお願いしました。先生は台風の影響を受け来福がおくれ、当日朝の講演直前の到着でした。講演の内容は主に地域における保育需要に対応するための保育対策促進事業について基本的な考えや方向性について、さらに病児・病後児保育事業特に自園型病児保育について解説されました。質問がいろいろ出ていましたが時間的に限界があり、明快な回答が得られないものもありました。

次に教育講演1では武谷茂先生に「保育における病児の印象診断」と題して、多くのスライドを駆使されて、実際の写真を中心に観察の大切さ、ひらめきの重要性を医師や看護師以外の素人にも実に分かりやすく話していただきました。会場の皆様もきっとこれから子どもを見る目が変わるだろうと思います。

教育講演2では濱野良彦先生に「歯と子どもの心のつながり-育児支援としての歯の管理」と題して、育児支援に対する小児歯科医療のあり方や考え方について、「歯を治療する“から”“予防する”へと変わってきている、さらに歯を育てることは心まで育てるという発想の元で保育士や栄養士との協同の重要性について述べられました。

教育講演3では吉永陽一郎先生に「病児保育と育児支援」と題して育児支援とはどんなことか、耳をかた向け聞いてあげることの大切さ、タッチケア効果と有用性などについて九州弁を混ぜながらユーモアたっぷりに、しかし内容の濃い心に残る話をしていただきました。

#### 5. ステップアップ研修

ステップアップ研修では神原永長先生に「知って得するおくすり講座2007」と題して、子どもの周りにはいろいろな薬物があることの認識と注意、病児保育施設では薬の副作用や副反応、誤飲や中毒、薬の使い方をはじめ薬に関する正しい知識たうえで対応していく必要性をのべられ、昨年からさらにパワーアップしたようでした。講演後は他に6名

の薬剤師が加わりおくすりなんでも相談コーナーで個別の相談に当たっていただきました。

#### 6. 基礎研修

基礎研修の方法は平成17年より1クールが看護Ⅰ、保育Ⅰ、総論、保育看護を1年目に看護Ⅱ、保育Ⅱ、総論、保育看護を2年目に受講するというようになっていますが、今回は初回の年度になっています。したがって看護Ⅰは赤平幸子先生に「保育士のための看護知識」、保育Ⅰは森田倫代先生に「看護師のための保育知識」、保育看護は帆足暁子先生に「保育看護の課題と方向性」、総論は藤本保先生にそれぞれ研修テキストならびに「必携 新・病児保育マニュアル」をもとに話していただきました。各研修とも年々内容が充実され、研修の成果が上がってきています。ただ、施設形態の多様化により研修内容も今後見直す必要があるため、皆様の希望を取り入れながら研修委員会の中で検討させていくと思います。

#### 7. 分科会とポスター発表

今回は5分科会と3部門のポスター発表を準備して、一般演題として募集しました。はじめは演題が集まるかどうか大変心配でしたが、その心配を他所に44題もの多くの応募を頂きました。事務局としてもうれしい悲鳴で、むしろセッションごとに分けるのが大変でした。

分科会Ⅰは「病児保育のニーズと問題」として6題、分科会Ⅱは「病児保育の実践と工夫」として6題、分科会Ⅲは「地域の取り組み」として6題、分科会Ⅳは「病児保育の管理と運営」として6題を口演により発表していただきました。

ポスター発表はポスターⅠ「保育看護と地域連携」として6題、ポスターⅡは「遊びとおもちゃの工夫」として7題、ポスターⅢは「病児保育のニーズと問題」として7題発表していただきました。いずれの発表も非常に質の高い内容で、中には一般演題ではもったいないようなすばらしい演題もありました。皆様の病児保育に対する熱意を痛感させられ、今後の発展が大いに期待されました。

#### 8. なんでも相談

なんでも相談は前回と同じように、何でも相談Ⅰ「施設運営・管理」と何でも相談Ⅱ「保育看護の実践」を企画しました。今回は各相談に対し、きちんした回答が出来るように

と、事前に相談内容を聞くことになりました。事前に数件の相談について応募をいただき、会の質疑応答に大いに役立つことが出来ました。応募に協力していただいた、皆様に感謝申し上げます。またコメンテーターとして相談にのっていただいた常任協議員の先生方に合わせて感謝申し上げます。

#### 9. 調査研究委員会報告

今回は分科会Ⅴとして「新しいインシデント レポートシステムを利用したリスクマネジメント」として深谷憲一先生に、講義と実習による参加型の新しい研修方式で開会していただきました。事前登録制でしたが、100数名の参加があり、参加した人の評判は大変よく時間が足らなかったとのことでした。深谷先生は準備から実習まで本当にご苦労様でした。今後は講演形式だけではなく、このような参加型の研修会も増えてくることが予想されます。

#### 10. 学生による遊びとお話

今回初めての取り組みとして、西南学院大学准教授の門田理世先生の企画協力により、森暢子先生他14名の学生さんの自発的参加により「みんなあつまれ!~遊びの宝箱~」のコーナーを2日間にわたり設けました。テーマである“拓こう病児保育の未来を”に便乗させていただき、未来をにう学生さんが参加してくれることを目玉にしてPRさせていただきましたが、2日間で260人を越す参加者があり、大変な盛況でした。託児室の子どもさんの参加もあり、学生さんにとっては格好の実習の相手として、お互いに相乗効果があったと思います。子どもたちが、また本職の保育士さんまでもが実に楽しそうに遊んでいた(実習していた)姿がとてもよく大変うれしく思いました。

#### 11. 総会

15日に開かれた総会は議長に福岡県支部長の松本壽通先生が選出され、事務局から用意された議事は全て順調に審議され無事終了しました。

#### 12. 託児

託児室については昨年利用者が少なかったとのことなので、その対応をどうしようかと考えておりましたが、今回は利用者も多く15日14名、16日16名有りました。利用していた子どもさんたちも楽しそうに過ごしていましたので、開設の意義は十分ありました。今回3人の担当



で対応しましたが、今後は部屋の大きさや保育士の数などを考慮する必要がありますかもしれません。

### 13. 交流会

第一目の総会終了後に開かれた交流会も台風の影響を心配しながらも、当日の申込が予想以上に多く全体で300数十名の参加がありました。来賓として福岡県医師会長横倉義武先生、福岡市医師会長宮崎良春先生、日本女医会坂本雅子先生に挨拶をお願いしました。飛び入りで武見敬三氏に挨拶をしていただきました。その後、出し物としてシャンソンと実行委員でもある梁井信司先生によるプロ顔負けのジャズ演奏が始まると、場は大いに盛り上がり楽しい懇親の場となりました。

### 14. おわりに

今回の福岡大会は台風第4号、さらには新潟県中越沖地震という天災のダブルパンチを受け、若干参加者が少なかったかも知れませんが、中には悪戦苦闘して出席していただいた参加者もいらっしゃいました。不行き届きの点が多々あったと思いますが自己採点では及第点をつけて

よいのではないかと考えております。

厚生労働省はこれまでの健康支援一時預かり事業を手直して、保育需要に対応するための保育対策促進事業の一環で病児・病後児保育事業としてまとめ、とくに自園型病児保育として自園で体調不良になった児童を預かることが出来るような仕組みを設け、保育所において一定の対応が出来るようにすることを策定しました。今後これらの施策により、病児・病後児保育施設の増加が予測されます。病児保育施設が増加することは大変喜ばしいことですが、保育技術を始め保育の内容が十分満足できるような対応が出来るか否かが問題となっています。そこに従事する人たちが研修する場としての当協議会の役割がますます必要になってくると考えられます。

そのためにも、当研究大会がそれらの皆さんの研修の場として、また学習の場として、充実していくことが求められています。

今回の福岡大会が皆様にとって保育の原点をめざして、より良い病児保

育の実施にむけて、モチベーションがより高まることが出来て、何かひとつでも心に残り、学ぶことができましたなら、主催者としても所期の目的が果たせたと幸甚に存じます。

また、台風の影響で交通の混乱の中、大変なご苦労されて参加された方、帰路の際、新潟県中越沖地震の影響によりご苦労された方に心より労いの言葉とお礼を申し上げます。また、被災地の方にはお見舞い申し上げますとともに早急の復旧を祈念いたします。

最後に、15日大会第1日目約650名、16日大会第2日目約750名述べ約1400名の多数の方に参加していただきまして、このように成功裏に滞りなく大会を終わることが出来たのも、全国病児保育協議会会員の皆様をはじめ常任協議員の役員皆様、ご講演を戴いた講師の先生、ご後援を戴いた関係各位、そして3年間じっくりと準備を重ねて来ていただいた実行委員の皆様ならびに日本旅行一同様に心よりお礼を申し上げます。

## 基調講演まとめ

### 「多様化する病児保育の資質向上に向けて」

講師：全国病児保育協議会

顧問 帆足 英一 先生

報告者：さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ 佐藤 里美



台風接近の中、参加者の無事到着を願いながら開会された福岡大会は、帆足先生の基調講演で始まりまし

た。病児保育の理念、保育看護の重要性を基盤としたお話の中に、毎回新しい話題を盛り込んで解りやすくご講演いただいております。

今回は「多様化する病児保育の資質向上に向けて」というテーマでした。保育所型病児保育や自園型の制度化に伴って病児・病後児保育が多様化する中、安心・安全はもちろん、各タイプ、施設での資質向上をどのように図っていけばよいのか、そのポイントを解りやすくお話いただきました。

まず多様化する施設体系として、今年度より実施されている自園型病児保育について、今一番気になる話題でした。自園型病児保育はその名の通り、毎日通う園内にあり、その園に所属する子どもたちが利用できる病児保育室です。当日受診後急変が認められない時、緊急対応に支障のない範囲で保育が可能な場合で、安静を確保できる医務室が整備されていること、人員配置の上では医療機関で経験のある看護師を必ず1名配置すること、体調不良児が年間200人以上見込まれる保育園が対象となること他、さまざまな設置基準を示されました。そこで重要となってくるのが、発病2日目以降をどうするのか、ということです。

地域にある従来の医療機関型、

保育所型の病児保育室を勧めるなど他の病児保育施設との接点が大切になると述べられました。近年保育園が「選ばれる保育園」となってきたことから、自園に病児保育を設置することが、選ばれる基準として大きな意味を持つことと予想されます。しかし実質を伴う保育園になることができるのか、そこが大きな課題になることを帆足先生は強調されていました。

次は資質向上に向けてのセーフティ・マネジメントについてでした。セーフティ・マネジメントはサービス向上や利用者の満足度向上に向けた第一歩であると言われる。そのひとつである保育看護の専門性については、今自分たちの実践している保育看護の領域がどこまで拡大できているのか、各職種と情報は共有できているのか、などお話を伺うたびに自らを



振り返る機会となります。また火災や震災に際しての避難訓練の必要性なども盛り込まれ、おりしも今大会中に起きた新潟中越沖地震と重なり、その大切さを実感しています。

また協議会の活動として、自己評価、第三者評価への取り組みの中で「認定施設」基準の策定に取

り組まれることや、各施設の不採算因子の是正として固定補助額の増額や医師手当ての確立、各種保障や補助などを行政に期待したいと熱く語られました。

乳幼児健康支援一時預かり事業から病児・病後児保育事業として一本化されたことにより本事業がますます期待される中、現場では

施設の多様化により混雑が生じていることも事実です。その中で私たちは、施設体系ごとに期待される各々のニーズと役割を明確にし、日々の忙しさに流されることなく、安心と安全を提供できる事業をすすめていくことが必要であると、改めて考えさせられるご講演でした。

## 教育講演 1 まとめ

### 「保育における病児の印象診断」

講師：たけや小児科医院

院長 武谷 茂先生

報告者：向田小児科 キッズハウス

向田 隆通



講師の武谷先生

武谷先生は、1993年8月、第3回外来小児科研究会年次集会を久留米市で会長として開催され、その際、先生のクリニックを訪問させていただき、先生の素晴らしい、外来小児科に関する姿勢や、クリニックの造りやカルテ、スタッフの対応等を通して見させていただき、自分の外来診療のスタイルに大きく影響したことを大変感謝申し上げます。

お母さん方が何かがおかしい、気になると感じる、ということは重大なことが多く、小児科医としては決して軽んじてはいけない事

柄だと思います。

今回の武谷先生の教育講演での、初期印象診断とは、「最初に出会った時点で異常に気づき、直感で問題点や病気を判断し、適切に対処すること」と、武谷先生は講演の最初にお話しされました。印象診断のポイント、異常発見のきっかけをたくさんのご自身の症例の写真で説明していただきました。

顔つきから何が分かるか、いつもと違う顔つき、泣き方、咳の音、大便、吐物、発疹を素早く的確に見る必要性、おたふくかぜとリンパ節炎の時の腫れ方の違い、けいれん時の注意事項、”かぜ熱”と区別すべき病気10項目、腹痛はクイズのように色々な原因がある

こと（便秘から腸重積のように緊急性があり見逃してはいけないものまで）、乳幼児の不機嫌の攻め方、原因探し、等を一つ一つ丁寧に実体験を元に、病児保育室の看護師、保育士の立場で、病気の評価にどう行動するか、を示唆していただきました。

医学とは経験の学問で、経験することに勝る勉強方法はありません。病児保育室の中での病児の状態の把握、病気の評価はまさに医学と同等の事柄が要求されます。

今回先生に掲示していただいた写真の一つ一つは、いくつもの本で読む内容や話よりもはるかにわかりやすく、印象的でした。病児保育室の保育士や看護師だけでなく、全ての親御さんが武谷先生の講演された内容をマスターされると、病児保育室は安心どころか、小児科医の日常診療での仕事はなくなりそうです。講演を聴いている方々は誰一人居眠りをすることなく、武谷先生のご講演に傾聴していました。本当に心に残るご講演でした。

## 教育講演 2 まとめ

### 「歯と子どもの心のつながり - 育児支援としての歯の管理 -」

講師：濱野歯科医院

院長 濱野 良彦先生

報告者：城東こどもクリニック病児保育室 ことりの森

竹内 郁子



講師の濱野先生

研究大会1日目午後の教育講演2は濱野歯科院長濱野良彦先生による「歯と子どもの心のつながり 育児支援としての歯の管理」という演題でお話ししていた

いただきました。

40数年前の子どもの歯科医といえば注射して歯を削り、泣いて暴れる子どもに悪戦苦闘しているイメージが定着しています。現在の小児歯科は①虫歯や歯並びの治療②虫歯や歯周病の予防③食生活の指導④定期健診として口腔の成長発達チェックという治療から予

防へと変化しているとのことでした。小児歯科の育児支援は子どもの障害や疾病の有無にかかわらず口腔機能の生育を評価していくことが必要とされます。健診において母乳の飲ませ方、食べるということから子どもの口腔機能と心の発達が見えるようです。どの子においても発達段階に合わない介助法、食物性状は発達を阻害することでありました。日常の例ではおしゃぶりの長期使用は口唇閉鎖不全や口呼吸をすることで口腔機能全般の遅滞を招くそうです。

次に濱野先生の歯科医院の紹介でした。待合室と治療室に壁がない、医院解放型にしていました。



先生は1997年におもちゃコンサルタントの資格を取得し、おもちゃと医療、文化の融合をめざして子どもの歯科医療をしています。とても楽しい雰囲気親子とも安心できる医院でした。まとめ

として「育てる」ためにはこれまでのように歯科医師と歯科衛生士だけのスタッフでは不十分であり、育児支援としての小児歯科医療の在り方は、保育士、栄養士との協同が不可欠であるということ

でした。以上濱野先生の教育講演の主な主旨をまとめさせていただきました。育児支援としての小児歯科の役割について焦点のしぼられた内容で日々の保育看護に生かせる話を頂きました。

## 教育講演3まとめ

### 「病児保育と育児支援」

講師：吉永小児科医院

副院長 吉永 陽一郎 先生

報告者：医療法人徳洲会 八尾総合病院

神原 雪子



吉永陽一郎先生は平成6年に聖マリア病院という総合病院で、全国初の子育て専門診療科

「育児療養科」に従事された先生で、以後育児をする人のそばにいて実践されてきた方です。博多弁まじりのお話から温かい先生のお人柄がにじみでていた楽しくてためになる講演だったと思います。

育児支援には

- ①育児の負担を軽くする
- ②安心して育児ができるようにする

③愛着形成支援  
④リフレッシュ  
⑤親を守る、子を守る  
の5つの種類があるといわれていました。病児保育はそのどの要素も含んでいると思います。また育児支援の会話のこつとして・励まさない・相づちをうちながら最後まで聞いてみるなどを私たちに教えてくれました。先生が初めて日本に紹介したという TOUCH CARE (タッチケア) のお話もありました。便こねをしていた自閉症児がタッチケアをすることで、ぐんと問題行動がへった事例のお話があり、その効果の大きさにびっくりしました。また最近話

題の虐待についても言及されました。

病児保育は究極の育児支援といわれますが、単に病気の子も預かる場ではなく親子のために育児を支え、子どもの健康支援・発育支援の場でもあるとの思いで、私たちはとりくんでいます。今回の講演はまさにその育児支援の具体的な例をあげて、必要かつ重要なエッセンスをもりこんでお話いただいたのではないかと考えております。この講演をきいた私たちが元気になるような、そんなお話でした。

プログラムの最後で、スケジュールの都合できけなかったという方もいらっしゃると思いますが、先生のご経験の内容が本になっております。「子育ての、そばにいる人はだれ？」(メディカ出版)きけなくて残念だった方はぜひご一読いただければ、育児支援の具体的なノウハウ、私たちができる育児支援など参考になると思います。

## 会頭講演まとめ

### 「福岡市における病児保育の現状と課題」

講師：高崎小児科医院

院長 高崎 好生 先生

報告者：全国病児保育協議会

会長 木野 稔



会頭講演では、病児保育の必要性とその社会背景の分析からはじまり、福岡市における病児保育事業実施

にいたるあゆみと現状、そしてこれからの課題と展開について理路整然と述べられた。全てのデータや図表は抄録に記載されており、スライドは見やすく、口演原稿も明瞭でわかりやすく、まさに高崎会頭のお人柄が伺える緻密に準備

と配慮が行き届いた講演であり、今大会を大成功に導いた象徴的な演題であった。事前にその内容を読んでいた者にとっては、今回の講演で福岡市の病児保育事業がなぜうまく行っているのか、それでもなお病児保育自体がかかえる問題点は何なのかということがよく理解できた。

病児保育の必要性と社会背景を分析する限りにおいては、全国共通の認識がされるのだが、ではどのように地域で病児保育を実現するのかという段になると、その方

法は各地で混沌としており、職種間ではまとまらず、結局実施主体である市町村の熱意に任せたまになっているという地方が多いのではなかろうか。

福岡市は最初から違っていた。医師会が保育協会の協力を得て、まず地域の保育園の病欠児の実態調査を行い、病児保育対象児の想定がなされた。さらに、小児科医会の会員に向けての実態調査を行い、それらの結果を踏まえて医師会から行政(市長)に対して要望書が出された。市の予算が決定すると同時に、医師会が開設場所を区分して候補者を募集、福岡市に推薦をおこなったのである。

このように最初から実現にいたるまで、そして現在の事業運営においても、医師会がこれほど病児保育に主導的役割を担っている地区は他にはない。医師会主導による病児保育事業の利点について

は、窓口が一本化しているため行政との諸交渉がスムーズにでき、医師間や施設間の問題に中立的な立場から対処することによりトラブルを回避できるなどが挙げられていたが、病児を扱う事業として医師会が基本的に責任を持って関わっているという存在感が何よりも重要だと感じた。

各地で今後、保育所型病児保育や自園型などにおいて、協力医療機関や指導医・嘱託医との密接な連携が模索されることになるが、ほとんどの場合地元医師会の理解が薄く、積極的な協力が得られないと予想されるだけに、福岡の状

況が非常にうらやましく感じた方も多かったと思われる。

利用数は年々増えているが、やはりキャンセルが20%近くあることに問題が提起された、キャンセル理由としては完治登園したというのが一番多く、年毎に仕事の関係で軽症でも予約をしているという方が多くなっているという分析であったが、病児保育の宿命ともいえる問題点であり、この点はしっかりと協議会としても主張し行政の理解が必要と思われる。それにしても高崎先生はすでに10年前から同じ姿勢でキャンセル理由を調査され、その内容の変遷か

ら現状を分析されておられた。一施設における調査であるが、説得力は非常に大きく、医療機関併設型、特に個人で行われている診療所での病児保育の最も大きな利点がここに表れていると思う。

これからの展開として、栄養相談や予防接種など子どもに関するあらゆる健康問題に総合的に対応できる小児保健法などの法整備についても述べられたが、現実的には地域の子育て支援センターとして機能している各病児保育室がますます発展する予感が強く感じられる素晴らしい講演であった。

## 特別講演まとめ

### 「子どもの育ちとこれからの子育て支援」

講師：福岡教育大学

名誉教授 横山 正幸 先生

報告者：医療法人 松本小児科医院

理事長 松本 壽通



講師の横山先生 現代の子ども達のいじめなど心の問題は、学童期、思春期になって突然始まるものではなく、出発点は、まさに乳幼児期にあります。そして子どもの心の予防のためには乳幼児期からの心の健康ほど大切なものはありません。横山正幸先生はこの問題について、熱く、そして解りやすく話していただき、私達聴衆に深い感銘を与えられました。

まず、深刻化する子どもの育ちの実態について分析して、①すぐイライラする、何もしたくない、生きているのがイヤになるなど、笑顔のない子どもたち、②自分は何をやってもダメな人間だ、など自分を積極的に評価しない、自尊心の低い子どもたち、③規則をきちんと守れない子、④思いやりや正義感に欠ける子どもたちなどについて、鋭く問題点を指摘されました。

次に、なぜ子どもがこのような状態になったか、その最も大きな要因の一つ親の放任と過干渉が共存した過保護について警告されま

した。まず、乳幼児期にスキンシップ、語りかけをあまりしないことなどによる基本的信頼感の欠如、さらに基本的な生活習慣や生活リズムのしつけをきちんとしない、すなわち睡眠や食生活の乱れなど、さらに発達段階に応じて、体験すべきことを体験しないことによる心の発達の問題を実例をあげて、解り易く指摘されました。

次に、親の育児力の低下について「小・中学生の頃、赤ちゃんの世話をしたことが全然ない」という3歳児の母親が40%いる事実から、現代の親が子育てに自信がなく、不安を感じるのは当然で、また親自身も「放任・過干渉共存型過保護」の養育を受けてきた世代で、それが当然と思っていることについて述べられました。

最後に、子どもの心と体が健やかに育つためには「適量の原則」があることを親がよく理解して、発達段階に応じて体験すべきことを体験できる自由を保障してやることの大切さを強調されて、そのために親が育児力を高めるための具体的な方策について12の項目を紹介しました。

①子どもと語ったり、触れ合ったりする機会を豊かにもつようにす

ること。

②基本的な生活習慣や生活リズムを幼いときからきちんとしつけること。

③子どもが本来自分ですべきこと、しようとしていることには手を出さず、やり方を根気強く「教え」て「任せ」、忍耐強く「見守る」ようにすること。

④食べ物・飲物・衣類・おもちゃなど、必要以上に与えないようにすること。

⑤子どもの要求・欲求を安易に受容しないこと。また、受容するとしても、場合によっては少し時間をおき待たせるようにすること。

⑥適度な挫折や困難は積極的に体験させること。

⑦子どもはお客様ではない。家族の一員として年齢に応じた役割(手伝い)を与えること。

⑧人として「してはいけないこと」「積極的にすべきこと」は日頃からしっかり教えること。

⑨その子なりの伸びや良さに目を向け、認めるべきことは認め、しっかりほめてやるようにすること。

⑩危険を伴ったり、道徳やしつけに反する行動でない限り、子どもの生活に干渉し過ぎないようにすること。

⑪学習塾や、外注教育はできるだけ控えるようにすること。

⑫親が良き大人としての生活態度をとるようにする。

以上、子育てに関わる私達には、大変示唆に富む内容で、先生が述べられた子育て支援の知識を生かして、病児保育に励みたいものです。





**分科会報告**



■ 分科会Ⅰ「病児保育のニュースと問題点」 ■

座長：こどもクリニックもりた

森田 潤

各発表のレベルの高さに驚いた。大規模で正確なデータやアンケートをもとに問題点と解決策を呈示していただいた。浜松医科大学の野田先生は福岡市保育所(園)での大規模調査に基づき、発熱と翌日の欠席率の関係を科学的に示し (<http://www2.hama-med.ac.jp/w1a/health/>

fns.html)、“ことりの森”の松原先生には、65 保育園へのアンケート結果に則した保育士と看護師の交流の実践。”バンビーノ”の佐藤さんからは利用者 891 名からの実際のニーズ。日本女医会の斎藤先生からは 1000 を超える施設と利用者 7,640 名のアンケート調査による、現在の病児保育を

考える詳細な基礎データが提供された。

社会への理解を求める行動のきっかけとなる重要な情報です。今後これら発表の内容を正式に文書として刊行できる協議会雑誌の創設が必要であると感じました。



■ 分科会Ⅱ「病児保育の実践と工夫」 ■

座長：なずな病児保育室

前田 敏子

台風の影響のなか開催された分科会Ⅱ、参加者で満員でした。まず、浜本小児科病児保育室の浜本医師より、院内感染防止にむけての演題発表がありました。昨年驚異の感染力をみせたノロウイルスの院内感染防止対策案。日本人の 16% が非感受性者で感染しないそうです。なんでも唾液検査で分泌型、非分泌型が識別できるので血液型とでノロウイルスのサブタイプの感受性者、非感受性者が識別することができるそうです。感受性者を隔離する、或いは非感受性者で保育することによって防止できるのではないかとこのことでした。感染症学会だったかなと思うようなレベルの高い内容で勉強させてもらいました。

ついで、中野こども病院きしゃぼぼの岸本さんより病児保育は急性期のこどもを保育するため、数日預かっているうちに重症化していくことや入院もありうる事、この場合保護者がこどもの病状をどれくらい正しく理解しているのかを把握する必要があるという発表でした。改めてこの点に留意して日々の保育にあたるべきであると再認識しました。また保育園型の病児保育室が急性期のこどもを保育する時の注意点であるとも言及されました。食育とは今盛んにさげばれている事柄です。

が季節の物を制作することで、初対面の保育士に親しみをもち、安心感につながっていき病児保育室が良かった楽しかったという体験になるのではないかと発表でした。

さらにハグルームの芳野さんは「壁面制作」を保育士とこどもがすることで安心な環境を提供でき、保護者とこどもが壁面に貼ることで親子の触れ合いの機会をもつことになるという発表でした。病児保育室への安心感のみならず、育児援助の一環になるのではないかとこのことでした。

最後は西部病児ディケアルームの兼子さんより「後追い泣き」の分析の発表がありました。こどもの「後追い泣き」は愛着行動のひとつなので、あって当たり前というものの体の具合の悪さを表現しているものなのかを見分けることは重要であるとのことでした。

医師、看護師、保育士と各々の分野でのアップデートな常にレベルの高い内容の発表ばかりでほんとうに勉強になりました。病児保育の中心はこどもです。質の向上をめざし、こどもが安心して保育される環境を作り出す努力を続けたいとおもいました。



わかば病児保育所の坂口さんよりの発表は食事指導の問題点の発表でした。この中で、アンケート調査でどんな事で困りましたか？という項目が非常に参考になりました。どうしても一方通行となりがちな食事指導です。親に受け入れられるような良い方法を考えたものです。そして、ここからがこどもとのかかわりの演題です。

リトルベアの佐久さんより、「あそび」として保育士とこども

■ 分科会Ⅳ「病児保育の管理と運営」 ■

座長：すみれこどもケアルーム

小田 文江

大会 2 日目、6 演題の発表と質問ディスカッションを行いました

た。演題番号 19 では、病状の悪化

と併設病院での点滴処置、主治医及び地域基幹病院との連携について話されました。質問は保育中の点滴について出されましたが、フロアの 3/1 は保育中の点滴処置があると挙手があった。これについての学習も課題となる。

演題番号20では、チームでの保育看護を充実していくためのチェックリスト作成とその活用についての報告がなされました。自己分析と苦手克服をおこない、仕事に対するモチベーション維持は、施設が責任を持って行くことが大切というお話でした。

演題番号21では、スタッフの感染予防・健康管理・環境の整備についての全国調査をおこなったアンケート報告がされました。結果として採用時検診では保育園等の施設が充実しているものの、抗体検査やワクチン接種率はやや低い回答でした。医療機関併設型ではその逆の結果となりました。保育中にスタッフの感染が認められた回答もあり、疾患別対応マニュアルの整備という課題があげられました。

演題番号22では、病児保育室における研修医の実習教育についての報告がされました。小児科を

希望していない医師でも、小児プライマリケアや地域医療を学び、病気中心の考え方から、家族や生活を中心においた子どもとしてとらえていくために、大切な研修となっている。子どもと過ごす経験のない若い医師には厳しい時間となるが、紹介されたスライドには、緊張とともに楽しそうな子ども達との笑顔も見られた。フロアの3/1以上の施設が学生の実習受け入れをしており、次世代育成に病児保育の役割も期待されるものとなってきている。

演題番号23では、宮崎の病児保育室スタッフ有志による保育看護充実のためのフローチャート作成に向けての取り組みが報告された。保育士・看護師がそれぞれに持つ不安や遠慮、雇用形態の違いからくる意識の差など「ぬけられない疑問」としてとらえてきた。それが離職にまでつながることもふまえて、話し合いを重ねていく

ことで、病状対応のフローチャートを保育士・看護師が協同し作成を進めている。

演題番号24では、病児保育における多元的サービスの提案として、少ない補助金での赤字運営や人的確保及び資質の向上などの問題点にどう対処していくか、アメリカでの病児保育事情等育児援助の企業の取り組みや日本企業における「くるみん認定マーク」の紹介などが報告された。企業に利用されているとの声もあるなか、つぶれない病児保育事業であるための試みも大切なものとなっている。



## なんでも相談報告

### ■ なんでも相談Ⅰ「施設の運営・管理」 ■

座長：エンゼル多摩

池田 奈緒子

「なんでも相談Ⅰ」は、主として施設長・施設管理者を対象に開



かれました。予めインターネットを通じて寄せられた質問は、2点。1問目は、定員増に向けて行政に働きかけを行なうに当たっての注意点は何か。2問目は、保育園併設型に協力医をおく場合の報酬・業務内容について、でした。その他に、会場から寄せられた相談・質問は、かかりつけ医からの情報提供書が、診療情報提供料の算定

対象になるのかどうか、キャンセルの対応としてキャンセル料を徴収するのはどうかと、しているとところのノウハウ等、でした。どの質問にもコメンテーター並びに会場から活発な意見が寄せられ、と同時に各施設での現状を垣間見る事ができました。施設によって現状にかなりの差がある事・自治体によって考え方が全く違う事が改めて確認される一方、何を訴え何を要求するに当たっても、実績報告・統計資料など実際の数字を提示する事が大変重要である、という意見の一致を見ました。

### ■ なんでも相談Ⅱ「保育看護の実務」 ■

コメンテーター：病児保育室ことりの森

赤平 幸子

「何でも相談Ⅱ」では、具体的に実務で困っていることや疑問に思うこと等、その名の如く何でも相談できる場となっております。今年は予め大会前から質問を受け付けており、誤飲を予防できるおもちゃの選択や、オンコール保育士への回覧ファイルについて事前に質問が出されておりました。誤

飲防止にはおもちゃの選択にチャイルドマウスを活用している施設が多く、市販のチャイルドチェッカーを使ったり、ラップの芯を使ったり、母子手帳に載ってあるチャイルドマウスをコピーして作ったりと、各施設での事故防止対策に対する意識を確認することができました。また、日々変動す

る受け入れ児童数にはオンコールスタッフを待機させて対応している施設も少なくはなく、久しぶりに呼ばれたスタッフが業務変更や申し送りを確認するための保育士用回覧で取り込まれているお話を聞くことができました。その他、食事の提供法、鼻のかみ方、昨年話題になったオムツの処理法などについて各施設の取り組みと意見交換がなされました。ここに参加した方々が日頃直接実務に関わるヒントを持ち帰ることができれば嬉しく思います。



ポスターセッション報告

■ ポスターセッションI 「保育看護と地域連携」 ■

座長：宇治病院乳幼児健康支援サービスセンター

松本 良文

このセッションでは7つの演題があり、各演題とも活発な討論が行われました。1題目は熊本のレインボールームの前田先生から、玉名市だけでなく他の市町村からも補助を受けて運営されている発表でした。2題目は香川のトビウメ病児保育室の飛梅先生から病児保育室で呼吸停止を起こした

乳児に対して適切な処置を行い事故につながらなかったケースを報告していただきました。3題目は東京都 アリエルの手塚さんから子どもに安心感を与える接し方に武術を用いていると言うことで実演を交えての発表でした。4～6題目は、それぞれ、神奈川県 病児後児保育センターぽっかぽかの林

さん、神奈川県 エンゼル多摩の三浦さん、鹿児島県 ぐうちよきば一の桑原さんから保育と看護の融合について自験例に基づいた演題を発表していただきました。7題目は福岡県 第一保育短期大学の岡村さんから病児保育実習を行った学生のアンケート結果の発表で、将来保育士になった時に病児保育室での実習が生かされると言うことでした。いずれの演題も一生懸命病児保育に取り組んでおられるのが伝わってくる発表でした。

■ ポスターセッションII 「遊びとおもちゃの工夫」 ■

座長：病気あけ保育室 のんたんルーム

杉本 照子

今回の全国病児保育協議会研修会ですが、ポスターセッションの座長という「大役」つきで、日が近づくにつれ不安が募り当日を迎えました。しかし、いざ始めるとその不安もすぐに吹き飛び、発表者の方々の現場ならではの熱い語りに吸い込まれました。

各施設の取り組み内容や分析と

共に保育看護にあたる皆さんの思いがずしっと伝わってきました。

個々の考え方や感じ方の違いはあったにしろ、どの施設も「保育看護」の質的向上を目指して、日々、奮闘されている事をどの方も感じられた事でしょう。互いに刺激し、高めあう事ができ、遊びの内容やおもちゃの充実が今後も

なされていく事を実感しました。

また、発表の方は、ご自身のレベルアップと、自己開発もできた事と思います。

また、私自身も座長を経験させて頂いた上に、多くの方と出会い、話をする場を与えていただいた事に感謝します。このセッションに関わって頂いた方々のご理解とご協力があった無事終える事ができました。この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

■ ポスターセッションIII 「病児保育のニーズと問題点」 ■

座長：みなみクリニック

南 武嗣

病児保育の実践報告として、不登校の患者さんや心疾患の患者さんまでおあずかりしている保育室の経験。病児保育室におけるISO9001の運用の経験。昼食に

介護用レトルト食品を上手に使った経験などが報告された。

研究的なものとしては、病棟保育士の医学生、看護学生における認知度の研究。東京女子医科大学

や京都大学など、研究職、高度医療現場の近くにおける病児保育導入の経験。第16回大会における「お薬相談」についての詳細な報告。緊急サポート事業の現状に関する研究などが報告された。

いずれも、病児保育の裾野の広がりを感じられた。今後様々な経験や研究の交流が必要と思われる。

大会参加者の声

5年目研修終了の喜びの声

\* あっという間の5年間でした。楽しく勉強させていただいて感謝です!!

かわむら小児科 病児保育室  
立野まる美 様

\* 今年も全国で日々活躍されていらっしゃる保育士さんをはじめ各専門家の方々に出会い、学びの

場にてはじめてポスター発表に取り組みました。この日を迎えるために医療機関併設型(小児科医院)に席をおかせていただき6年目、院内の各専門職員(医師・看護師・栄養士・保育士等)とともに学びを深めることができました。これからも大好きな子どもひとりひとりを見る目、技術の向上につとめ、研修で学んだことを現場に

生かし、保育士として仕事の幅をさらに広げることができるよう努力したいと思います。

桑原淳子 様

交流会に参加して

ハローワークでこのお仕事を見つけて、病児保育で3年目になります。研修に参加して子どもの対処の仕方など、いろいろ参考になりました。子どもの身体に触れてみてわかることがたくさんあります。病児保育は楽しいです。

香川県 保育士

## 第17回全国病児保育協議会総会議事録

第17回 全国病児保育協議会総会 議事録

日時：平成19年7月15日(日) 17:50～18:30

場所：福岡国際会議場

一、会長挨拶(木野稔会長より)

一、仮議長および議事録署名人選出

仮議長として高崎会頭、および議事録署名人として進藤静生先生と平田ルリ子先生を推薦。

◆拍手で承認された。

一、仮議長による議長選出

会場より立候補者がおらず、松本壽通先生を推薦。

◆拍手で承認された。

一、木野運営委員長より総会成立の説明

現在の加盟施設は394施設。総会に参加する施設は67施設、委任状を提出した施設は189施設、計256施設になる。これは全施設数の過半数を超えており、総会は成立する。

一、議事

(1)平成十八年度事業報告

運営委員会(木野稔委員長より)

平成18年7月15日(土) 運営委員会

(リーガロイヤルホテル大阪)

平成18年7月15日(土) 常任協議委員会

(リーガロイヤルホテル大阪)

平成18年11月26日(日) 運営委員会

(東京国際フォーラム)

平成19年3月21日(水祝) 常任協議委員会

(八重洲ダイビル)

平成18年度年会費納入状況・マニュアル販売状況(木野稔委員長より)

入会金448,000円(入会施設44施設・準会員6名)、事業年会費8,425,000円(364施設・準会員26名)、賛助会費529,000円の納入があった。

年会費は平成17年度が5施設、平成18年度が20施設未納となっている。必携・新病児保育マニュアルの売上冊数は779冊、10年のあゆみの売上冊数は71冊であった。

研修委員会(南武嗣委員長より)

第1回 平成18年7月15日(大阪市)

大阪大会の研修部門の進行・記録、アンケートなど

正副委員長会議 平成18年11月26日(東京都)  
全国研究大会の研修内容と運営について、次期執行部と研修委員会構成など

第2回 平成18年11月26日(東京都)

福岡大会の準備状況について(アンケート、なんでも相談など)

研修システムの今後と次期研修委員会のあり方について

第3回 平成19年3月21日(東京都)

福岡大会の研修部門の内容の検討、テキストの検討

調査研究委員会(深谷憲一委員長より)

(1)委員会開催

第1回調査研究委員会 平成19年3月21日

議事:

①平成17年度全国病児保育事業実態調査の中間経過報告

②リスクマネジメントパイロット調査について

ツールとして新インシデントレポートシステムを提案、報告

(2)調査

I.「平成17年度病児保育事業実態調査」

中間経過報告:委員会開催毎に進捗状況を報告

(3)研究事業

I. リスクマネジメントの標準化に向けてパイロット調査を計画

新インシデントレポートシステムの開発、運用に向けての準備

広報委員会(神原雪子委員長より)

①病児保育ニュースの発行

第39号 平成18年5月31日

臨時号 平成18年7月16日 研究大会当日号

第40号 平成18年9月25日 総会・研修会特集号

第41号 平成18年11月30日

第42号 平成19年1月25日

②ホームページ関連

月1回をめぐりに更新

病児保育ニュースを掲載、「入会の案内」の掲載

③広報委員会の開催

平成18年7月15日 大阪

平成19年2月11日～12日 大分 大分こども病院

◆平成18年度事業報告について、拍手で承認された。

(2)平成十八年度決算報告(木野稔運営委員長より)

平成18年度決算について 予算対比増減に対する説明

収入の部については、予算作成時の予測よりも多くの施設から納入があったこと、また、マニュアル・テキスト等の販売が好調だったこと等により当初予算を約300万上回る20,549,178円であった。

支出の部については、合計が11,178,742円とほぼ当初予算どおりとなっており、よって繰越金は当初予算を約300万上回る9,370,436円となった。



◆平成18年度決算報告について、拍手で承認された。

(3) 監査報告(向田隆通監事より)

会計帳簿および関係書類を監査した結果、正確であることを認め、収入・支出および決算処理、平成18年度事業は適正に行われていることを証明いたします。

(4) 平成十九年度事業計画

運営委員会(木野稔委員長より)

平成19年7月14日(土) 運営委員会

(福岡国際会議場)

平成19年7月14日(土) 常任協議員会

(福岡国際会議場)

平成19年11月または12月(予定) 運営委員会

平成20年2月または3月(予定) 常任協議員会

研修委員会(南武嗣委員長より)

第1回 平成19年7月14日(福岡市)

福岡大会の研修部門の進行・記録、アンケートなど開催予定

第2回 平成19年9月8日(東京都)

福岡大会の反省、研修プログラム・テキスト、記録集の検討

第3回 平成19年11月頃

三重大会進行状況の確認と協力

調査研究委員会(深谷憲一委員長より)

(1) 委員会開催

第1回調査研究委員会 平成19年6月17日

議事:

①平成17年全国病児保育事業実態調査の中間経過報告

②第17回研究大会の調査研究委員会報告について  
新インシデントレポートシステム研修会の進行次第

研修(実習)内容の確認

第2回調査研究委員会 平成19年7月14日

(2) 調査

I. 「平成17年度病児保育事業実態調査」

協力施設への報告、論文作成準備

(3) 研究事業

I. 病(後)児保育施設リスクマネジメントパイロット調査

パイロット施設の選出、調査開始

広報委員会(神原雪子委員長より)

①病児保育ニュースの発行(内1回は総会・研修会特集号)

4月、6月、8月、10月、2月の5回

②病児保育ポスターの作成

③HPの拡充

支部紹介 閉鎖している一般の掲示板の再開

関連の学会の情報・各ブロックや都道府県段階での取

組の紹介

④広報関連資料の整備

⑤広報委員会開催

平成19年7月14日 福岡

平成20年2月11日~12日 予定

⑥学会での報告(医師等への報告)

平成19年4月22日 日本小児科学会での発表

⑦研究大会の広報を保育看護の学会誌雑誌へ掲載

⑧企業など関連ある事業へ広報を行う

◆平成19年度事業計画について、拍手で承認された。

(5) 平成十九年度予算案(木野稔運営委員長より)

平成19年度予算案について

収入の部については、事業年会費8,500,000円、賛助会費500,000円、入会金400,000円、マニユアル・テスト等販売代金1,000,000円、雑収入100円(これは主に銀行利息)、合計19,770,536円とし若干抑えた予算である。

支出の部については、次期大会準備金2,000,000円を新たに設け、また広報活動強化の観点から広報委員会費を100,000円増額し400,000円とした。支出合計は12,920,000円となり、繰越は6,850,536円となる。

◆平成19年度予算(案)について、拍手で承認された。

(6) 役員の辞任(木野稔運営委員長より)

今回役員の改選は無いが、常任協議員の浦野不二恵先生と委嘱常任協議員の小田文江先生が辞任されるため、次回改選まで欠員となる。

(7) 支部長会の報告(木野稔運営委員長より)

「地方支部と各地区ブロックの関係について」(会則規約改定委員会中間報告より)

1. 「ブロック」という表現は勉強会の名称として今後も使用しても構わないが、公式には「支部」を使用する。

2. 支部が合同して行う研修会は地方支部合同研修会という位置づけになる。

3. 地方支部合同研修会に運営補助が必要な場合は、申請方式として協議会から補助を行う。

※協議会から補助金を拠出する場合・3つ以上の地方支部合同研修会であることを条件とし、申請方式で1件10万円以内、1年に1回までの補助とする。

・申請は運営委員会に行い、委員会で検討の上決定する。合同研修会は事後報告を行う。

全国病児保育協議会会則ではブロックを地方組織とし明記しないが、病児保育実施施設の入会率を上げ、地方における本事業の促進と質の確保を組織的に行うためにも、地方支部及び合同研修会の活動が益々重要になってくる。

一、閉会挨拶

以上



# 第17回 全国病児保育研究大会in福岡



▲会場 (福岡国際会議場)



▲総会風景



▲パネルディスカッション



▲講演に耳を傾ける参加者



▲分科会風景



▼書籍やグッズの販売も行なわれました



▲懇親会風景



全国病児保育協議会事務局

〒535-0022 住所：大阪市旭区新森4-13-17 中野こども病院気付

担当：薮田・堀込 電話：06-6952-4778 F A X：06-6954-8621